

京都:Re-Search 2018

京都府内では交流人口の拡大、地域の活性化へ繋げるさまざまな取組を行っています。その一つとして、アーティストが一定期間滞在し、地域で制作を行うアーティスト・イン・レジデンス事業※「京都:Re-Search」を実施し、地域が本来持ち得ているポテンシャルやその魅力をアートの視点から引き出すことを試みています。

アーティスト・イン・レジデンスとは...

- 芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながら作品制作を行うチャンスを提供する事業のこと。
- (日本国内では) アーティストの育成や支援だけでなく、空き家・商店街の空店舗を活用した地域振興や人の交流による地域活性化の手段として用いられている。

京都:Re-Search 2018 in 亀岡

平成30年度は、亀岡市において、短期アーティスト・イン・レジデンス事業「京都:Re-Search 2018 in 亀岡」を実施します。平成31年2月25日から3月10日の14日間にわたり、京都府内のみならず、ほかの地域で活動するアーティストや工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動されている人が亀岡市に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、ゲストアーティストと共に、亀岡の風土や歴史等の調査を行います。亀岡での発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度にアートプロジェクトや作品プランの実現を目指します。またそれらを記録しデータ化していき、地域の新たなアート・ドキュメントを作っていきます。講師には、国際的に活躍しているアーティストやキュレーターたちを迎え、リサーチの手法を学ぶワークショップやフィールドワーク、参加者が行うリサーチへのアドバイスを予定しています。



01/02 京都:Re-Search in 舞鶴 2016 リサーチの様子
03 ワークショップの様子

申込みについて

平成30年12月3日(月) - 平成31年1月15日(火) 17時まで

参加申込書 www.pref.kyoto.jp/bungei/artist-in-residence.html
ダウンロード先

参加申込書 bungei@pref.kyoto.lg.jp
送付先

応募方法

参加申込書をダウンロードし必要事項を記載の上、メールにて提出して下さい。

※申込の際、メールの件名に
亀岡参加希望と記載し送付下さい。

問合せ先

京都:Re-Search実行委員会事務局
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府文化スポーツ部文化芸術課内
TEL 075-414-4279
e-MAIL bungei@pref.kyoto.lg.jp

京都府アーティスト・イン・
レジデンス事業

参加者
募集!!

京都: Re-Search

2018

in 亀岡



【ゲストアーティスト】

目 | [mé] [現代芸術活動チーム]

【プログラムサポート講師】

金澤 韻 [インディペンデント・キュレーター/十和田市現代美術館 学芸統括]

島袋 道浩 [美術家]

募集要項

締切: 2019.1.15 (火)

17時まで

事業概要 ABOUT

- 01 実施期間**
平成31年2月25日(月) - 3月10日(日)
- 02 講師**
・目 | [mé](現代芸術活動チーム)
・金澤 韻(インディペンデント・キュレーター/
十和田市現代美術館 学芸統括)
・島袋 道浩(美術家)
- 03 滞在(宿泊)場所**
京都府亀岡市保津町「心凜愛荘」
※ただし、個室なし、男女別の共同部屋となります。
- 04 募集人数**
7名程度
- 05 応募資格**
・本事業開始日に20歳以上40歳以下の方
・期間中のすべてのプログラムに参加できる方
- 06 事業中の助成内容**
・調査経費及びアーカイブ作成費として
1名当たり5万円を助成
・居住地から亀岡市内までの交通費として
1名当たり上限3万円を助成
・滞在施設の提供 ※2月25日-3月10日、
そのほか滞在に関わる費用は自己負担
- 07 募集期間**
平成30年12月3日(月) - 平成31年1月15日(火)17時まで
- 08 選考等のスケジュール**
提出いただいた書類を元に選考を行います。
(1) 選考ポイント
・本人の意欲
・独創的なリサーチ計画
(2) 結果通知 平成31年1月28日(月)
応募者全員に選考結果をメールで通知いたします。
- 09 事業主体**
京都:Re-Search実行委員会
(構成:京都府、亀岡市ほか)
助成: 損保ジャパン
日本興亜「SOMPO アート・ファンド」
(企業メセナ協議会2021 Art Fund)

講師プロフィール PROFILE



現代芸術活動チーム

Photo: Takahiro Tsushima

目 | [mé]

果てしなく不確かな現実世界を、私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。手法やジャンルにはこだわらず、展示空間や観客を含めた状況、導線を重視。創作方法は、現在の中心メンバー(アーティスト荒神明香、ディレクター南川憲二、インストーラー増井宏文)の個々の特徴を活かしたチーム・クリエイションに取り組み、発想、判断、実現における連携の精度や、精神的な創作意識の共有を高める関係を模索しながら活動している。主な活動に、たよらない現実この世界の在りか/資生堂ギャラリー/東京、おじさんの顔が空に浮かぶ日/宇都宮美術館館外プロジェクト2014、Elemental Detection/さいたまトリエンナーレ2016、repetition window/Reborn-Art Festival/石巻、などがある。



《おじさんの顔が空に浮かぶ日》
宇都宮美術館 館外プロジェクト 2014

《repetition window》
制作:2017年 主催:Reborn-Art Festival



インディペンデント・
キュレーター・
十和田市現代美術館
学芸統括

金澤 韻

KANAZAWA Kodama

東京藝術大学大学院にて美術史および美術教育史、英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アートで現代美術キュレーティングを学ぶ。熊本市現代美術館など公立美術館での12年の勤務を経て、2013年に独立。2017年より十和田市現代美術館学芸統括としても活動。日本の近現代における文化受容の歴史への興味から、漫画、グローバルゼーション、ニューメディアアートなどを調査対象とし、「美術」領域を問い直す活動を続けている。近年の主な展覧会にKENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭(茨城、2016)、「ラファエル・ローゼンダール:ジェネロシティ 寛容さの美学」(十和田市現代美術館、青森、2018)がある。



美術家

島袋 道浩

SHIMABUKU

1969年神戸市生まれ。那覇市在住。1990年代初頭より国内外の多くの場所を旅し、そこに生きる人々や動物、風習や環境に関係したインスタレーションやパフォーマンス、ビデオ作品を制作している。パリのボンビドー・センターやロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展やヴェネチア・ビエンナーレ(2003/2017)、サンパウロ・ビエンナーレ(2006)などの国際展に多数参加。2004年から2016年まではドイツ、ベルリンを拠点にし、ドイツ、ブラウンシュワイグ芸術大学やスイス、チューリッヒ芸術大学などで客員教授を務める。著書に「扉を開ける」(リトルモア)、絵本「キュウリの旅」(小学館)などがある。

Photo: Noguchi Rika

ワークショップスケジュール WORKSHOP SCHEDULE

※実施期間中、下記プログラム以外は、各自の計画により亀岡市内を調査し、アートプロジェクトや作品プランの構想を策定します。
※スケジュールは予定であり、実施にあたっては変更する場合があります。

2/25(月)	ガイダンス及びゲストアーティストとの交流会 時間 15:00~ 会場 亀岡市内 講師 目[mé]	
2/26(火)	フィールドワーク、その後参加者からのプレゼンテーションとゲストアーティストによる講評 講師 目[mé] アートプロジェクトや作品プランを組み立てて行くためのヒントとなる、亀岡市内の場所(現地)をゲストアーティストと実際に調査しながら巡ります。フィールドワーク終了後には参加者からのプレゼン、それに対するゲストアーティストからの様々な意見やアドバイスをいただきます。	
2/27(水)~ 3/2(土)	各自リサーチ 期間 計4日間	
3/3(日)	ワークショップ①「地域とアートプロジェクト」※1 講師 金澤 韻	
3/4(月)	参加者による中間報告会及び ゲストアーティストによる講評 講師 目[mé]	ワークショップ②「折り返しディスカッション」※1 講師 島袋道浩×目[mé]
3/5(火)~ 3/8(金)	各自リサーチ 期間 計4日間	
3/9(土)	講評会及び活動報告展 ※2 活動資料などを用いたレジデンス期間の報告を行います。 講師 目[mé]	
3/10(日)	参加者の活動報告展 活動資料などを用いたレジデンス期間の報告を行います。	

※1 本プログラムでのワークショップとは、情報の交換や共有のみならず、アイデアの出し合いやディスカッションを繰り返し、各自が設定したテーマに沿ったアートプロジェクトや作品プランの実現に向けた戦略や施策などを固めていくものです。

※2 次年度、本プログラムで提案されたアートプロジェクトや作品プランのもとにした展覧会を伴うアーティスト・イン・レジデンス事業「大京都2019 in 亀岡」の開催を亀岡市内で予定しています。



若手のアーティストや工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動されている人が亀岡市に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、ゲストアーティストと共に、地域の風土や歴史等の調査し、そこでの発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度の実現を目指します。あわせて、その活動をデータ化しウェブサイト、SNSで発信すると共にアートの視点による地域の新たなドキュメントを作成していきます。